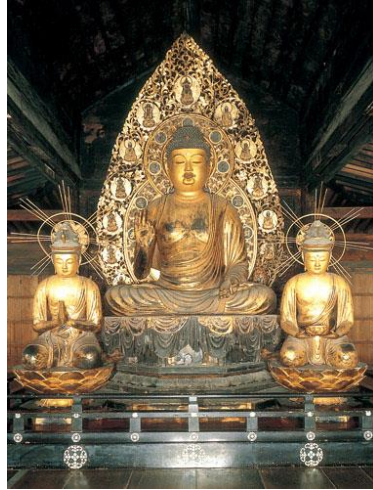


阿弥陀如来



『阿弥陀経』 浄土について

ブツダは修行者の一人である舎利弗シャリーブトラにこのように言われた。

「ここから西方、十万億の諸仏の国土を過ぎたところに『極楽』と名づけられる世界がある。そこには阿弥陀仏という仏がおられ、いま現在も法を説かれている。この世界は、一切の苦がなく楽のみであるから、極楽と言われる。

阿弥陀仏というのは、その仏の光明が無量であり、十方の国を遍く照らしているあまねので限りなき光明アマターバ(無量光)と言われる。またこの仏と、この仏の国土にいる人民の寿命が無量であるから、限りなきいのちアマターユス(無量寿)とも言われる。

極楽浄土へは、わずかばかりの善行によってでは、往生することはできない。阿弥陀仏の名を一日、あるいは七日、一心不乱に唱えれば、やがて人は臨終において迷わず、阿弥陀仏の極楽国土に往生することを得るであろう。だから人はかの仏国土に生まれたいとの願いを起こすべきである。

もし人が、かの阿弥陀仏の国に生まれたいとの願いを既に起こしたならば、あるいはいま起こしつつあるならば、あるいは将来起こすであろうならば、その人はみな、この上ない正しいさとりを得ることからもはや退くことがなくなり、かの国土に既に生まれ、あるいは今生まれつつあり、あるいは将来生まれることであろう。だから人はかの仏国土に生まれたいとの願いを起こすべきである」

「極楽国土に生まれた者は皆、もはや仏道において退くことのない不退転の境地に達しています。その多くは、今は兜率天とそつてんにいて次に仏になる弥勒菩薩いっしやうふしよに等しい一生補処いっしやうふしよ（次に生まれたときに仏になる）の菩薩です。その人々は衆生を救う菩薩の道を歩んで来て、もう一度だけ輪廻転生の生涯を送り、次には必ず仏になります。

彼らは修行者の中で最高の位まで来ました。極楽国土にはその人々が非常に多く、その数を数えることができません。もし、無量無辺阿僧祇劫にわたって数え続けければ、ようやく数え終わるほどの数です。

もし人々がこの極楽国土のことを聞くならば、発願して、その国に往生したいと願うべきです。なぜなら、その国に生まれるなら、そのように多くの上善人ぐえいっしよと俱会ぐえいっしよ一処ぐえいっしよ（浄土に集うこと）であること、すなわち、もっとも優れた聖者達と自分が極楽国土で集うことができるからです」

『無量寿経』法蔵菩薩について

世自在王仏せじざいおうぶつ（ローケーシヴァラ・ラージャ）の世に、一人の国王がいました。その王は世自在王仏の説法を聞いて心に喜びをもち、無上の悟りへの道を求める心を起こしました。それゆえ国を捨てて、王位を投げ捨てて出家し、沙門びく（層）すなわち比丘びくになったのです。その比丘の名前を法蔵（ダルマーカラ）と申します。法蔵比丘は才能に優れ、勇気と聡明さの飛びぬけた求法者でした。

法蔵比丘は世自在王仏のみもとにひざまずき、御足をいただいて礼拝しました。さらに古代の礼法にしたがって右に三回りして礼拝・合掌してから世自在王仏を讃えました。そして次のように言いました。

「世に自在なる世尊に誠をもって申し上げます。私は無上の悟りを求めて発心いたしました。私に広くみ教えを賜りますようお願い申し上げます。私は修行し、無量の諸仏の国土の中から清浄にして莊嚴の国土を選び取ります。衆生の苦しみ迷う世において速やかに正覚を成就し、人々の生死の苦の根本を除き去ることが、どうか私にかないますように」

それを聞いて世自在王仏は次のように答えました。

「あなたが修行するのですから、自分自身で諸仏の国々の優れたところを知り、その良いところを選択し摂取しなさい」

法蔵比丘はさらに教えを乞います。

「諸仏の境界は広大で深く、私の知り得るところではございません。それゆえひたすら世尊にお願い申し上げます。私に諸仏の浄土のありさまをお説きください。私はみ言葉に従って修行し、必ず願いを果たします」

世自在王仏は法蔵菩薩の志が高いことを知って、さらに言葉を授けました。

「例えば、一人の人が大海の水を一升^{ます}ずつつって量を測るようなことでも、幾劫も続けるならば目的を成就できるであろう。大海の水を汲み尽くして、海底の妙宝を手に入れることもできよう。それと同じく、人が熱心に精進して道を求め続けるなら、それらは必ず成しとげられよう。いかなる願いも叶えられないことはない」

それから世自在王仏は法蔵菩薩に二百十億の諸仏の国の神々や人々の善悪と、国土の粗雑・絶妙の異なる特色を説き、菩薩の心の望むところに従って、その様子を現わして観察させました。

法蔵菩薩は世自在王仏の力によって示された諸仏の国々の^{おごそ}厳か清らかなありさまを知り、皆ことごとく観察して、自ら無上最勝の国土を立てようと発願しました。そして菩薩は沈思の行に入りました。

菩薩の心は静かに澄み渡り、寂靜の心には何も執着はなく、生死の一切世間を超えることは、誰一人として及ぶところのないものでした。そして五劫という長い時を思惟し、国土を莊嚴すべき清浄の特性を選択し摂取したのです。

その沈思の行を修行し終わると、菩薩は世自在王仏のもとに詣でてみ足をいただいて礼拝し、次のように申しました。

「私は我が国土を莊嚴で清浄にそなえるべき特性を知ることができました」

これを聞いて世自在王仏は次のように告げました。

「では菩薩よ。その国土の特性を申しなさい。今、時が熟しました。それを語って一切衆生の心に勇気と喜びを与えなさい。そのことを聞けば、菩薩の道を求める者達は法に目覚めて修行し、皆が大きな願いを達せられるであろう」

菩薩は四十八項目の請願を世自在王仏のみ前で宣言しました

〔第十八願〕

たとえ私が仏になる時が来ても、十方の衆生が心から我が本願を信じ、我が国土に往生したいと願って十念、十回でも我が仏名を称え、もし往生することができないようであれば、私は仏にはなりません。ただ、母殺し・父殺しなどの五逆の思い罪と、正しく示された法を誹謗する深い背徳の人は除かねばなりません。

十劫成仏

釈迦牟尼世尊がこのように法蔵菩薩の請願と菩薩の行についてお説きになったとき、阿難尊者が世尊に問いました。

「法蔵菩薩はすでに仏になっておられるのでしょうか。まだ仏になっておられないのでしょうか。また、仏になられたとしても、遠い過去のことでもありますので、すでに入滅されておられるのでしょうか。あるいは現にましますのでしょうか」

世尊は阿難尊者に答えました。

「法蔵菩薩はすでに仏になり、今も現にあります。その仏の苦には、ここから西方十萬億の諸仏の国を過ぎたところにあり、名付けて極楽と言います。また、法蔵菩薩が仏になられてから、おおよそ十劫がたっています」

世尊と弥勒菩薩との対話

この煩惱に汚染された世界で心を正しくし、意を正しくして、たとえ一日一夜でも斎戒清浄（心身の清浄に励むこと）であれば、無量寿仏の国土で百年の善をなすより優れています。なぜなら、かの仏国土では、そうしようと思わなくても自然に多くの善を積んで毛ほどの悪もないからです。

この世で十日十夜、善を修すれば、その功德は他の諸仏の国土で千年の善をなすより優れています。なぜなら、他の仏国土でも、善をなすものは多く、悪をなすものは少ないからです。それらの国土では自然に福德があり、造悪の地ではないからです。